

2022

---

# 室蘭市子ども議会会議録

---

令和4年8月10日開会

令和4年8月10日閉会

室蘭市開港150年・市制施行100年記念事業

## 室蘭市子ども議会審議日程

(会期1日)

月 日	曜	会議区分	会議時間	会議内容
8. 10	水	本会議	13:00~15:06	開会、会期の決定、一般質問、閉会

室蘭市子ども議会 質問者・質問項目一覧

順 序	学 校 名	質 問 者	質 問 項 目
1	本室蘭中学校	白 川 丈 二 副 嶋 沙紀亜	1. 空き店舗（シャッター街）について 2. 子どもの虐待について
2	桜蘭中学校	森 田 旬 間 宮 隆 世	1. 駅周辺の活性化を図るための政策について
3	室蘭西中学校	篠 崎 未 來 安 里 琉 翔	1. 住宅街の街路灯問題について 2. 若者の市外流出について
4	翔陽中学校	工 藤 航 樹 木 村 賢太朗	1. ハイウェイオアシスの建設・道の駅みたら室蘭の活性化について
5	星蘭中学校	後藤田 勇 大 石 澤 希 歩	1. 大型ショッピングモールの誘致について 2. 室蘭を広くPRするために行っている対策について
6	港北中学校	成 田 彪 白 木 元	1. 室蘭の人口減少について
7	東明中学校	長 井 悠 工 藤 慎太朗	1. 地震・津波等における避難所について

# 目 次

## 第1号（令和4年8月10日）

議事日程	1
会議に付した事件	1
出席子ども議員	1
説明員	1
事務局出席職員	1
齋藤総務課長	1
挨拶（児玉議長）	1
挨拶（青山市長）	2
就任挨拶（長井子ども議長）	3
開会宣告	3
日程第1 会議録署名議員の指名（白川 丈二議員、安里 琉翔議員）	3
日程第2 会期の決定（8月10日 1日）	3
日程第3 一般質問	3
○本室蘭中学校 白川 丈二議員並びに副嶋 沙紀亜議員	3
○桜蘭中学校 森田 旬議員並びに間宮 隆世議員	6
○室蘭西中学校 篠崎 未来議員並びに安里 琉翔議員	9
○翔陽中学校 工藤 航樹議員並びに木村 賢太郎議員	13
休憩宣告	16
齋藤総務課長	16
就任挨拶（間宮子ども議長）	16
再開宣告	16
○星蘭中学校 後藤田 勇大議員並びに石澤 希歩議員	16
○港北中学校 成田 彪議員並びに白木 元議員	19
○東明中学校 長井 悠議員並びに工藤 慎太郎議員	22
閉会挨拶（長井子ども議長）	24
閉会挨拶（間宮子ども議長）	24
閉会宣告	24

令和4年8月10日（水曜日）

第 1 号

室蘭市開港150年・市制施行100年記念事業

室蘭市子ども議会会議録 第1号

令和4年8月10日(水曜日)

午後 1時00分 開会

午後 3時06分 閉会

○議事日程

- 日程第1 会議録署名議員の指名  
日程第2 会期の決定  
日程第3 一般質問

総務部長 和野泰始  
企画財政部次長 高橋知規  
生活環境部長 佐野正樹  
保健福祉部長 塩越順一  
経済部長 関川純人  
都市建設部長 佐藤一徳  
港湾部長 佐藤肇  
公営企業管理者 佐藤学  
水道部長  
病院事業管理者 新井一  
病院事務局長 舩田喜代志  
教育部長 坂口淳  
消防長 赤木裕之

○会議に付した事件

議事日程のとおり

○出席子ども議員(14名)

子ども議長 7番 長井 悠  
子ども議長 10番 間宮 隆世  
1番 篠崎 未来  
2番 安里 琉翔  
3番 後藤田 勇大  
4番 石澤 希歩  
5番 工藤 航樹  
6番 木村 賢太朗  
8番 工藤 慎太朗  
9番 森田 旬  
11番 成田 彪  
12番 白木 元  
13番 白川 丈二  
14番 副嶋 沙紀亜

○事務局出席職員

総務課長 齋藤 昌志  
議事課長 田中 隆一  
書記 鈴木 百々

午後 1時00分 開会

○説明員

市 長 青山 剛  
副市 長 小泉 賢一  
副市 長 白熊 良平  
教育 長 伊藤 博明  
代表監査委員 杉本 久佐男

○総務課長(齋藤 昌志) それでは、定刻となりましたので子ども議会を進めてまいります。

私御案内いたします室蘭市総務課の齋藤と申します。どうぞよろしくお願いたします。

それでは、開催に先立ちまして、室蘭市議会児玉 智明議長から御挨拶を頂戴したいと存じます。よろしくお願いたします。

○議長(児玉 智明)(登壇) 皆さんこんにちは。

今日は室蘭市開港150年・市制施行100年の記念事業であります子ども議会に参加いただきありがとうございます。7校から14名の皆さんが参加していただいていますけれども、今日こうして全員がこの場に顔をそろえていただいたということに本当にうれしく思います。

皆さんは既に何回か打合せ等で議会の役割と行政の役割についてはレクチャーをされていると思うので分かっていると思いますけれども、私たちはいつもこの場で皆さんの日常生活に関わる大事なことを、今ここに座っている市役所の理事者の皆さんと議員とでいろいろと話合っています。そのことを今日皆さんに体験していただくということですから、緊張しているかも知りませんが、いつも私たちがやっていることを皆さんがやっているのを、今度は我々がちゃんと見させていただいて、勉強させていただきたいというふうに思っています。

いろいろ質問をつくるのに苦労したのかも分かりませんが、今回皆さんの質問に答えていただくのが青山市長と伊藤教育長だということなので、なかなか議会の中でも市長とか教育長に答えてもらうというのはありませんので、今回、皆さんが室蘭への思いをどういうふうに市長にぶつけて、市長からどういう答弁が出てくるのか楽しみにしています。

ぜひ、皆さんが思ったような答弁を市長から引き出せるように頑張ってくださいと思います。

今日はよろしくお願ひします。頑張ってください。

**○総務課長(齋藤 昌志)** ありがとうございます。

続きまして、青山 剛室蘭市長から御挨拶いただきます。よろしくお願ひいたします。

**○市長(青山 剛)**(登壇) 皆さんこんにちは。市長の青山であります。

子ども議会の開催に当たりまして、一言御挨拶

申し上げます。

本日、子ども議会を開催いたしますけれども、趣旨に賛同して御参加いただきました14名の議員の皆さん、そして各中学校の教職員の皆様や保護者の皆様の御協力の下に、そしてまた議員の皆さん方の御協力の下にこのように開催いただいたことに、まずは深く感謝を申し上げたいというふうに思います。

ただいま児玉議長からお話がありました、皆さん方の生活の身近なこと、あるいは室蘭の将来のまちづくりについて、この議会の場を通して様々決定、そしてまた御議論をいただいていると。その一部を今日皆さん方に体験していただくといったようなことで、是非皆様方の人生において貴重な経験となることを期待したいというふうに思います。

子ども議会につきましては、室蘭市開港150年・市制施行100年の記念事業の一つとして開催をするところでありまして、未来を考える好機となる事業の実施というふうに考えてございます。今回開催いたします子ども議会では、室蘭市として日本の未来を担う皆さん方に市議会を経験し、室蘭市の将来、そしてまた日本の将来について考えることをコンセプトにしているといたるところであります。

将来皆さん方はこの後学校を卒業した後に様々社会に出られて、多くの経験を積まれていくと思いますけれども、ぜひ今日の経験が皆様方の人生において有意義なことになるように、そしてまた今日あったことをぜひお友達、御家族にもお伝えをしていただきたいというふうに思います。

したがって、今日は多岐にわたって室蘭のまちづくりについて市に御質問をいただくわけがありますけれども、私も精いっぱいお答えをさせていただきますというふうに考えておりますので、どうかひとつ今日はよろしくお願ひいたします。

以上であります。

**○総務課長(齋藤 昌志)** ありがとうございます。  
ました。

それでは、あらかじめ互選により選出しております子ども議会議長から御挨拶があります。

東明中学校 長井 悠議員、お願いいたします。

**○子ども議長(長井 悠)**(登壇) 本日、議長を務めます東明中学校3年の長井 悠です。

有意義な時間となるよう、スムーズな議事進行に御協力ください。

(長井 悠 子ども議長議長席に着く)

**○子ども議長(長井 悠)** ただいまから、令和4年室蘭市子ども議会を開会いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

日程第1 会議録署名議員の指名を行います。

本日の会議録署名議員に、白川 丈二議員並びに安里 琉翔議員を指名いたします。

**○子ども議長(長井 悠)** 日程第2 会期の決定を議題といたします。

お諮りいたします。

今子ども議会の会期を本日1日とすることに異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

**○子ども議長(長井 悠)** 異議なしと認めますので、会期は1日と決定いたしました。

**○子ども議長(長井 悠)** 次は、日程第3 一般質問を行います。

通告がありますので、発言を許します。

本室蘭中学校 白川 丈二議員並びに副嶋沙紀亜議員

**○13番(白川 丈二)**(登壇) 本室蘭中学校3年の白川 丈二です。

本室蘭中学校を代表して、私からは空き店舗(シャッター街)について質問いたします。

室蘭市には幾つかの商業施設があります。衣類や靴、服、文房具など日常生活に必要な買物ができる商業施設のある町は住みやすい町だと思います。同じ市でも私たちが住んでいる白鳥台では全ての生活用品の買物はできません。商業施設まで買物に行くための距離や時間を考えると大変不便です。

また、最近ではネットショッピングが流通し、遠くに行かずに買物がしやすくなっていますが、私たち中学生は簡単にネットで買物ができません。さらに、白鳥台はお年寄りの方も多いため、ネットで買物をするのが難しい人も多いと思います。

白鳥台には今は使われていない土地やハックの中などには空き店舗が多くあります。そこで、それらの土地を商業者の方々に使ってもらうのはどうでしょうか。そうすれば町も発展し、空いている土地や店舗を有効に活用できると思います。

しかし、ただそのまま使ってくださいと言っても活用してくれる人は集まらないと思います。まずは、お店はお客が来る見込みがないと出店が難しいと思うので、私たちができることとして地域住民が求める業種のアンケートの取組の実施や、呼び込みのポスター・チラシ作成や呼びかけなどができると考えました。

また、空いている店舗の多くは古いものが多いです。それを壊して新しい施設を建てるのにもお金がかかるため、撤去やリノベーションするための費用や、空き店舗を活用する経費を助成、また室蘭市のサイトで土地を利用したい人たちを募集し、その方の要求に応じた支援をするなど、お店を誘致するために市でそのような取組をしていただくと、空き店舗を使用したい方々の負担が減り、この町でお店をやりたいと思えるのではないのでしょうか。

お店ができたときには私たちも貢献したいと思うので、利用していただくためにできること



は協力したいと考えています。御検討をお願いします。

**○14番（副嶋 沙紀亜）**（登壇） 本室蘭中学校2年の副嶋 沙紀亜です。

私からは子どもの虐待について質問いたします。

子供が安心できるはずの家庭で、愛情を注いでくれるはずの両親から虐待を受け、命が奪われるという事件が最近では増えているような感じがします。

先日こらんの方に虐待についての話を聞きました。虐待の対応は室蘭市と児童相談所、警察が連携して行っていますが、虐待になる前に発見するためには身近な目が必要ということが分かりました。

そこで、虐待の早期発見、防止のために私たちができることを考えてみました。まずは、学校生活の中で友達の話をよく聞いておくことです。おかしいなと思うことがあれば、先生や身近な大人に相談することで早期発見につながります。

次に、小さい子を連れていて困っているお母さんやお父さんがいたら、声をかけて助けられることはしてあげることです。少しでも抱えている負担を軽くすることで、防止につながると考えました。

次に、地域の方とのコミュニケーションによる早期発見です。しかし、私たち中学生と地域の方のつながりが少ないため、これは難しいと考えます。

なので、そのために室蘭市に協力してほしいことがあります。子供の命を守る、誰かに頼れる、助けを求められる環境をつくるために、地域の方と気軽に交流できる場所の提供をしていただきたいです。子供が相談するだけでなく、悩んでいる大人が相談できる場所でもよいと思います。地域の方と関わる機会や会話が増え、様々な目が多くなると虐待の早期発見や防止に

つながると思います。御検討をお願いします。

**○子ども議長（長井 悠）** 答弁を求めます。

青山市長

**○市長（青山 剛）**（登壇） 白川議員、そしてまた副嶋議員の質問に順次お答えをさせていただきます。

初めに、空き店舗解消に向けた取組についてであります。現在室蘭市では空き店舗等解消に向けて、空き地、空き店舗を活用して新たに新店を開業する方に対して、新築・改修費を一部支援するほか、空き家等を売却したいという方と定住するために建物を購入したい人とのマッチング事業として室蘭市空家バンクを設置しております。

特に、最近では新規創業者の相談が増加傾向にありまして、お話のありました白鳥台地区でも商業施設内の空きテナントを活用して飲食・小売店が新規出店されるなど、地域のにぎわいにつながっているものと感じております。

地域住民の皆さんが安心して暮らし続けていただくためには、改めて自分の住む地域のお店を積極的に御利用いただくこと、また今回、議員からも御提案がありました外から呼び込む工夫を地域全体で考えるという取組も大変重要であるというふうに考えます。

本市といたしましても、引き続き空き店舗の解消、有効活用に向けた取組についてしっかりと検討してまいりたいと考えております。

次に、児童虐待についてでございます。

交流、相談できる場所の提供につきましては、室蘭市子育て世代包括支援センターでは、子育て中の親子が身近に交流できるような広場を開設しておりまして、相談機関といたしましては、保健師、保育士、家庭児童相談員、母子・父子自立支援員、婦人相談員などの専門職員が妊娠期から子育て期までの幅広い相談に応じている実情であります。

また、要保護児童対策地域協議会の調整役を

担い、児童虐待等で支援が必要な子供の支援拠点として地域に身近な民生委員、児童委員や保育所、地域の医療機関などとの情報共有、連携を図っております。関係機関との連携、役割分担によりまして、それぞれの機能を十分に活用しながら児童虐待の早期発見、予防に努めてまいります。

以上であります。

**○子ども議長(長井 悠)** 本室蘭中学校 白川 丈二議員並びに副嶋 沙紀亜議員

**○13番(白川 丈二)**(登壇) それでは、空き店舗(シャッター街)について再質問いたします。

先ほどの御答弁で、室蘭市として空き店舗や空き家への支援を行っていることが分かりました。ただ、その支援では私たち中学生やお年寄りが求めている業種のお店が出店してくれるか分かりません。町を元気にするためには、地域住民が希望しているお店をつくるのが大切だと思います。

そのために、地域が希望している業者に対して、これまでの支援だけでなく、助成金を増やしたりなど、もっと手厚い補助をしていただくと地域の声を生かしたまちづくりができると思います。助成金が多くなると、お店を営みたいと思っている方が少しでも安心した気持ちでお店を営むことができ、地域の希望するお店だからこそ地域住民の協力で経済を豊かにし、町のにぎわいに貢献できること、生活における楽しみや生きがいができ、地域住民も安心して生活できると考えます。地域の求めるお店への支援の拡充をぜひお願いします。

**○14番(副嶋 沙紀亜)**(登壇) それでは、子どもの虐待について再質問いたします。

室蘭市子育て世代包括支援センターは2か所あるとお聞きしましたが、私の住んでいる白鳥台からは遠いため、子供だけで行くのは大変です。また、そういう場所に行く前に、地域の中

で子供が頼りやすい、子供自身に寄り添える場所を提供してほしいです。

各地域には民生委員さんがいるというお話も聞きましたが、私自身がその方の存在を知りませんでしたし、周りの友達も親も知りませんでした。相談できる場所ではありませんが、そのような方と顔合わせができるような空間や、こういう方を知ることができる空間の提供をしていただけると、自分たちにできることの幅が広がると思います。虐待の早期発見につながるような、まずは自分たちでできることをやっていくために、そういう場所が白鳥台に欲しいです。御検討をお願いします。

**○子ども議長(長井 悠)** 答弁を求めます。

青山市長

**○市長(青山 剛)** お二人の議員の再質問について、私のほうからお答えをさせていただきます。

初めに、空き店舗についての再質問へのお答えであります。本市では現在新たに開業する方に向けた創業支援事業補助金につきまして、直接店舗に出向いて買物することで地域のにぎわい創出につながるように、飲食店、小売業などを対象業種としておりまして、白鳥台の商業地域への新規開業につきましても利用していただけるようになっております。

また、今年の4月からは、20代～50代の働き世代に対するアンケート調査の結果を受けまして、特に自分の町に欲しいという意見が多かった飲食店に対して補助金の加算制度拡充を設けるなど、市民ニーズを踏まえた制度改正も行ったところであります。

今後につきましても、地域の皆様の声を踏まえながら、よりよい制度となるよう検討を進めてまいります。

次に、子供の虐待に関し、相談できる場所の提供についてであります。市内の各小学校に設置しておりますスクール児童館には支援員の

配置もしております、放課後は中学生も含め自由来館を可能としておりますので、児童並びに生徒の皆さんがその中での交流を通して虐待の早期発見につながるきっかけの一つとして寄り添える場所であると考えております。

また、子育て世代包括支援センターでは、対面の相談のほかに電話での相談やメールでの相談も受けておまして、内容によりましては家庭児童相談員などが家庭訪問し、現状を確認しながらの相談対応も実施しております。

今、議員のほうから、なかなか民生委員の方々が多分分からないといったようなこともありますけれども、例えば学校だとか、あるいはスクール児童館とか、そういった身近な方に聞いていただいて支援、あるいは相談につなげるといったようなことが、誰一人も取り残さない社会につながるというふうに考えております。

いずれにいたしましても、お話しさせていただきました各地域の民生委員、児童委員、保育所、幼稚園、小中学校など、地域の機関がしっかりと連携を図りながら、皆さんがこれからも安心して暮らせる、そういうまちづくりを目指していきたいと考えております。

以上です。

**○子ども議長（長井 悠）** 次に進みます。

通告がありますので、発言を許します。

桜蘭中学校 森田 旬議員並びに間宮 隆世議員

**○10番（間宮 隆世）**（登壇） 桜蘭中学校3年、間宮 隆世です。

**○9番（森田 旬）**（登壇） 桜蘭中学校3年、森田 旬です。

桜蘭中学校を代表して、室蘭駅及び東室蘭駅を中心とした駅周辺の活性化を図るための政策について質問します。

現在の室蘭市の現状を考えると、市内の人口は減少の一途をたどっており、最近では人口が

8万人を切るというニュースを見ました。

また、室蘭の主要産業である鉄鋼業はピークのとくと比較すると衰退しているように感じ、鉄鋼業に従事する労働人口や、それに伴う町や住居の空洞化が目立つと感じます。

室蘭市としては、町の発展や利便性の向上、市民の生活環境の改善のために様々な動きを行っていると思います。室蘭駅をはじめとする室蘭の西エリアでは、DENZAI環境科学館や室蘭市図書館、入江競技場や新設された栗林商会アリーナなど、文化やスポーツを楽しむ施設が集中してきており、地元民の暮らしは豊かになってきていると感じます。

また、むろらん港まつりなどのイベントが開催されることも多く、ほかのエリアや市町村からも人が集まり、にぎわっていると感じます。

そこで疑問に感じたのですが、室蘭駅周辺では室蘭市図書館や環境科学館、栗林商会アリーナなどの施設がありますが、このようなもののほかに何かまちおこしのようなものを行っていますか。

また、今後そのような企画を行う計画はありますか。

さらに、同様のことを今度は東室蘭駅の方面で行う予定はありますか。

また、東室蘭駅方面の施設でいうと、3月まで使用されていた宮の森体育館は長年市民に愛されてきた施設だと思います。特に、我々桜蘭中学校の生徒たちは、部活動の大会などで使ったり、友達とスポーツを楽しむために使ったりしてきたとても親しみのある施設です。

現状として、その宮の森体育館は取壊しなどをせず、使用されていない状態で放置されています。中島公園の敷地内にある体育館であり、その敷地面積はとて大きいと思います。この広大で市民のアクセス性がよい、この土地を有効活用しない手はないと思います。

室蘭市としては、今後宮の森体育館跡地を使

って何か建物を建設するなど、東室蘭駅周辺の利便性を向上させるような取組の予定はありますか。

**○子ども議長(長井 悠)** 答弁を求めます。

青山市長

**○市長(青山 剛)**(登壇) 桜蘭中学校 森田議員、間宮議員の両議員の質問に順次お答えをさせていただきます。

初めに、駅周辺の活性化を図るための政策についてであります。初めに室蘭駅周辺のまちおこしに関する政策につきましては、室蘭駅周辺にはたくさんの皆さんが訪れるよう、国の登録有形文化財である旧室蘭駅舎の隣にあります公園にSLを移設し写真撮影や見学などができるようにしたほか、SLをモチーフにした遊具を設置し、小さなお子さんも遊べるような配慮を施したところであります。

また、みなとまち散策路という散策コースを設定いたしまして、室蘭駅周辺を町の歴史を感じながら歩いて楽しめるようにしたところでございまして、先般も健康イベントと称しまして、歩くことで健康維持をといったような取組も行わせていただいたところであります。

そのほか、商店街エリアでにぎわいを生みきっかけづくりを目的に、市民の方々が主体となって様々なイベントができる広場を期間限定で用意し、市民のアイデアによるイベントが9か月間で70以上行われ、多くの皆さんが訪れたところであります。また、本日からも鉄と光のアートイベントも開催を予定いただいております。

続きまして、今後の企画の計画につきましては、新しい公共施設、令和6年度にはテニスコートも集約オープンするといったようなことも今計画してございまして、たくさんの皆さんを駅周辺の商店街などへ誘導し、にぎわいを生み出していくことが重要であると考えておりますが、市民の皆さんのアイデアを生かし連携を図

る中で、継続的ににぎわいが生まれるように市としても努めてまいる考えであります。

続きまして、東室蘭駅周辺での今後の取組につきまして、新たに公共施設を建設する予定は現在のところ考えてございませんが、室蘭駅周辺での取組の以前には、皆さんにも御利用いただいております生涯学習センターきらんの建設や周辺道路の整備などを行ってきたところであります。

今後も東室蘭駅周辺のまちづくりの方向性を示したまちづくり将来ビジョンに基づき、歩きたくなる町を目指し、歩道や店舗前の路上に飲食スペースなどを設ける、言わばオープンテラスを実施する商業者のサポートなどを実施し、にぎわい創出に取り組んでまいります。

また、中島公園内の旧体育館跡地を活用した取組につきましては、現在のところ建物の建設の計画はございませんが、町なかにある緑の空間として子育て環境の向上などにつなげ、市民の皆さんに愛され、そしてまた憩える公園となるような活用を考えております。

私からは以上です。

**○子ども議長(長井 悠)** 桜蘭中学校 森田旬議員並びに間宮 隆世議員

**○10番(間宮 隆世)**(登壇) それでは、宮の森体育館跡地の活用について再度質問します。

室蘭はもともとサッカーの町として町をPRしていたと思います。先日、我が桜蘭中学校のサッカー部が4年ぶりに2度目の全国大会出場を決めました。このような事例があるように、室蘭はまだまだサッカーの町としてPRすることができる下地を持っていると思います。

しかし、最近ではサッカーをプレーすることができる施設が少なくなってきているように感じます。この課題を解消するために、宮の森体育館跡地をサッカーコートとして活用してみたいかがでしょうか。そうすることで、サッカーをプレーする主に若者世代や子育て世代を中

心として利用者が体育館跡地及び東室蘭駅周辺に集まり、エリア周辺が活性化すると思います。

また、東室蘭駅周辺にそのような魅力的な施設ができることにより、近隣のエリアやその周辺の市町村からの人を呼び込むこともでき、土地や施設の有効活用と駅周辺のにぎわいを取り戻すことができると思います。

また、サッカーコートとしての活用が難しい場合には、別な提案もしたいと思います。主に子育て世代の方々が使いやすいような公園を設置するのはいかがでしょうか。

例を挙げると、たくさんの子供たちが走り回れたり、親子でお弁当を食べられるような大きい広場を設置したり、遊歩道やウォーキングコースを設置し、子供も大人も安全にけがをしにくいようなつくりにして、様々な世代の人たちが集まる憩いの場を創出することができると思います。

また、小さな子供や障がい者など、全員が使いやすいバリアフリーに配慮したトイレの設置、安全面に配慮した遊具の設置など、多種多様な設備を導入することで体育館跡地を有効活用できると思います。そうすれば、子育て世代である若者が増え、東室蘭駅周辺が活性化し駅周辺がにぎわうのではないかと思います。

このことにより、室蘭の西エリアはスポーツや文化を重視したエリアに、室蘭の東エリアは子育てを重視したエリアとして発展していき、室蘭全体の活性化や人口減少の歯止めにつながり、町が明るくより発展していくのではと考えています。

町の発展には駅という存在は欠かせないですし、市民以外の方に室蘭の魅力をPRするために、近隣の市町村や遠くから来られる観光客などを呼び込むためにも駅は欠かせません。室蘭駅、東室蘭駅、この2つの駅を中心とした町の活性化が、これからの室蘭市に必要な課題であると考えますが、いかがでしょうか。

**○子ども議長(長井 悠)** 答弁を求めます。

青山市長

**○市長(青山 剛)** それでは、再質問につきまして、私のほうからお答えさせていただきます。

旧体育館跡地のサッカーコートとしての活用につきましては、このたびの栗林商会アリーナの整備をはじめとして、現在市内のスポーツ施設の集約を実施しておりまして、新たなサッカーコートを祝津公園内に現在整備中でありますことから、お話のありました旧体育館跡地での整備は現在のところ計画をしてございません。

祝津公園のサッカーコートにつきましては、令和5年度、来春オープン予定でありまして、人工芝で稼働率も向上するといったようなことでございますので、今後はぜひそちらのほうを十分に活用し、お話のありましたサッカーでまた町を盛り上げていていただきたいというふうを考えてございます。

また、中島公園で子育て世代が使いやすい公園にするとのことについてであります。現在市では旧体育館の解体を含め中島公園のリニューアルに向けて取り組んでおりまして、昨年策定いたしましたまちづくり将来ビジョンで、子育て環境の向上に寄与する機能を中島公園の目指す姿の一つとして考えてございます。

御提案のリニューアルの方向性は将来ビジョンの考え方にも大いに合致いたしまして大変よい考えだというふうに考えております。

今後は周辺住民の皆さんのアンケート結果やただいまの御質問、そしてまたその他の市民意見、さらには民間事業者のアイデアなども参考に中島公園のリニューアルに取り組んでまいります。

室蘭駅と東室蘭駅を中心とした活性化につきましては、駅周辺のにぎわいは室蘭市全体の発展につながるものと考えております。平成31年に策定いたしました室蘭市立地適正化計画で

は、室蘭駅周辺地区と東室蘭駅周辺地区の2つの地区を市内の拠点に位置づけておまして、それぞれの特色に応じた公共施設や商業施設などの生活に必要な機能を拠点に誘導し、その周辺への定住を促すまちづくりを進めることというふうにしております。

いずれにいたしましても、これから将来にわたって持続可能なまちづくり、にぎわいのあるまちづくりが大切であるというふうを考えておりますので、室蘭・東室蘭駅周辺地区のにぎわい創出にしっかりと取り組んでまいります。

以上であります。

**○子ども議長(長井 悠)** 次に進みます。

通告がありますので、発言を許します。

室蘭西中学校 篠崎 未来議員並びに安里 琉翔議員

**○1番(篠崎 未来)**(登壇) 室蘭西中学校3年の篠崎 未来です。

室蘭西中学校を代表して、私からは住宅街の街路灯問題について質問いたします。

私は、市内の小橋内町に住んでいます。車など徒歩以外で移動することが多い方は感じるものが少ないと思いますが、学校や習い事などの帰宅時では町の街路灯が少なく、徒歩で帰るには暗く、とても怖いです。

私の近所の友人は、さらに山の上に住んでいます。そのため、家に帰宅する際は階段や坂を上らなければいけません。階段に行くまでの道も暗いですし、冬では雪かきがされていないこともあって危険に感じることもあるそうです。

街路灯は歩行者への安心感を与えるとともに、夜間の犯罪防止にも効果的です。

そこで、街路灯に対する具体的な対策や市と学校、町内会の連携はどのようなになっているのか、また街路灯の設置基準についても詳しくお伺いいたします。

私は帰宅時ずっと怖い思いをしながら、その思いを誰に伝えればよいのか分からなかったの

で、より気軽に意見を伝えることができる場をさらに提供してもらいたいと感じています。

少子高齢化が進み、税収が少なくなっているだろうということは中学生でもそれとなく理解はできるのですが、安全対策にどれぐらいの予算が割かれているのか、また街路灯の基数の増減についてもお伺いいたします。

**○2番(安里 琉翔)**(登壇) 室蘭西中学校3年の安里 琉翔です。

室蘭西中学校を代表して、私からは若者の市外流出について質問いたします。

私は若い人の市外、道外への流出について関心を持っています。室蘭市の人口はピークの約16万人から減少を続けており、今はその半分の約8万人です。自然減など様々な理由があると思いますが、私はこの人口減少の理由の一つに高卒の学生の多くが市外、道外に進学、就職していくという実態が挙げられると思います。

現在室蘭で行っている若者の市外流出に関する対策、具体的には現在室蘭に住んでいる若者に住み続けてもらう、あるいは市外、道外から来てもらう、また一度室蘭から出た人に戻ってきてもらうためにどうしていくのか、今後の展望などがあれば教えてください。

私は将来、経済学部等の学部がある大学に進学したいと考えています。しかし、室蘭市にはその選択肢はありません。必然的に将来室蘭から出ていくことになると思います。

室蘭市には町の規模から考えると、室蘭工業大学をはじめとして専門学校や看護学校など多くの学生が存在しています。しかし、分野がかなり偏っており、現在の多くの学生が求めているものとずれているようにも感じています。

そこで、私はたくさんある学校を再編し、学生の希望に合った総合大学のようなものをつくらなければならないかと考えています。多くの学生にとって魅力のある大学があれば、室蘭市の学生は室蘭市に残ります。道外や市外からも

人が集まります。人口が増えれば町は活気が出て、人を呼べるようなイベントもできるでしょう。また、大学の卒業生が新たな仕事をつくり出すかもしれません。その仕事を求めて、一度室蘭から出た人も戻ってくるかもしれません。

もちろん簡単にできる話ではないと思いますが、人口が減り続ける室蘭市を見ていると、これくらい思い切ったことも考えてみてはどうかと思います。いかがでしょうか。

**○子ども議長(長井 悠)** 答弁を求めます。

青山市長

**○市長(青山 剛)**(登壇) 室蘭西中学校 篠崎議員、安里議員、両議員の質問に順次お答えをさせていただきます。

初めに、住宅街の街路灯問題についてですが、国道や道道、市道では各道路管理者が道路交通上の安全と円滑化を目的に、主要な道路や交差点に街路灯を設置しておりまして、住宅街や商店街などでは町内会などが夜間の交通安全や犯罪防止等を目的に街路灯を設置し、市では設置及び維持管理費の費用の助成を行っている現状であります。

次に、本市と学校や町内会との連携についてですが、地域の方から街路灯に関する御意見や御要望があった場合につきましては、学校や町内会などの関係者の皆さんと一緒に現地を確認したり、相談することなどの連携を図っております。

次に、街路灯の設置基準についてですが、市が管理する市道の街路灯は交通量の多い交差点やカーブなど、安全上の必要性が高い箇所を中心に設置をしており、町内会等が管理する街路灯は交通量の少ない道路や住宅街など、町内会などが必要性を判断し設置しております。

お話にありました、危険と感じている住民、若者がいるというようなことでありますので、そういった皆さん方の声を今お話した関係者の皆さんと連携を図りながら、安心して地域で

生活できるようなまちづくりに取り組んでまいりたいと考えております。

次に、意見を気軽に伝えられる場の提供についてですが、子供たちを事故や犯罪から守るためには子供の視点に立った安全対策が重要でありますので、ただいまお話をさせていただきましたとおり、教育委員会や学校などとともにさらに連携を図りながら、児童生徒の意見を気軽に伝えやすい場や環境づくりを考えていきたいと思っております。

続きまして、安全対策の予算についてですが、地域の安全を守る取組は広範囲にわたります。街路灯の予算に関して申し上げますと、令和4年度の予算額は本市設置分が約1億1,900万円、町内会等への補助が約3,600万円、合計にして1億5,500万円となっております。

また、街路灯の設置基数につきましては、本市設置分が現在約3,100基で、過去10年間同程度の数を維持しております。町内会等が設置する街路灯は現在6,400基で、10年前との比較で50基増となっております。

次に、若者の市外流出対策についてお答えをさせていただきます。

初めに、若者の地元定着に向けた今後の展望についてですが、市では若者の多くが進学や就職をきっかけに市外に転出しておりますが、市内に若者が求める職種が少ないことも要因の一つだというふうに考えております。

このため、市では雇用基盤であります製造業、ものづくりの振興に加え、若者が求める職種である研究開発やIT関連企業の誘致にも近年では取り組んでいるところであります。

また、本市最大の地域資源である港を生かした企業誘致にも長年取り組んでおりまして、昨年来、洋上風力発電関連企業の本市への進出が公表されておりますが、脱炭素社会、ゼロカーボン社会に貢献する新たな企業の進出も若者の

皆さんの地元定着につながるものと考えております。

今後も地元就職やUターンに欠かせない多様な働き場所の確保に向けまして、町の資源を生かした企業誘致に取り組んでまいる考えであります。

次に、教育機関の再編による総合大学の設置についてでございます。

大変興味深い御提案をいただきましたが、課題が多いのもまた実情でございまして、現在は全国的に子供の数が減少しておりまして、新規の総合大学の設置については国の許可を得るのが難しいと考えられております。

先般も報道がありましたけれども、東京の2つの大きな大学が統合するような、そんな報道もあったかのように、この大学を再編——まとめていく流れになっているのも御理解をいただきたいというふうに思います。

本市におきましては、現在も室蘭工業大学や各種専門学校等が、高校卒業後本市に住み続けながら専門的な技術や知識を身につけられる貴重な場となっております、若い世代の人口の維持において本市の大きな強みになっております。

今後につきましても、これらの学校それぞれを本市の貴重な地域資源と捉えまして、若い皆さんの定住や移住促進に最大限生かしてまいりたいと考えております。

以上であります。

**○子ども議長(長井 悠)** 室蘭西中学校 篠崎 未来議員並びに安里 琉翔議員

**○1番(篠崎 未来)**(登壇) それでは、順次再質問させていただきます。

まず初めに、住宅街の街路灯問題についてです。

通学路の状態を気軽に伝えられる場をさらに提供してもらいたいという質問に対して、教育委員会や学校ともさらに連携をしながら意見を

気軽に伝えやすい場や環境づくりを考えていくとの答弁がありましたが、具体的にはどのような方策を考えていらっしゃいますか。教育長にお伺いいたします。

続いて、先ほど答弁していただいた安全対策の予算についてです。

滋賀県ではまちを明るくする運動として、外灯点灯運動を行っています。これは、市民の皆さんに夜間玄関灯や門灯を点灯していただく運動です。これにより既存の街灯を補完できるとともに、町を明るくし各種事件・事故防止にも効果的です。実際に20ワットの外灯を10時間点灯しても、1か月の電気代は140円程度です。室蘭市でもこのような思い切った対策も考えてみてはどうでしょうか。もし、室蘭市でも独自の取組を行っているのであれば教えてください。

**○2番(安里 琉翔)**(登壇) 私のほうからも再質問させていただきます。

室蘭市にある様々な学校を若い人の定住や移住促進に最大限生かしていきたいとのことでしたが、具体的にはどのようなことを行っているのでしょうか、教えてください。

また、大学の再編について、子供の数が減少していく中では難しいとのお答えでしたが、今あるものを守るだけではいずれなくなってしまうのではないかと不安があります。全てはできないのかもしれませんが、新しいことにも挑戦してほしいと考えていますが、いかがでしょうか。

**○子ども議長(長井 悠)** 答弁を求めます。

伊藤教育長

**○教育長(伊藤 博明)** 教育行政に係る再質問にお答えをいたします。

街路灯に関する意見を気軽に伝えやすい場や環境づくりの具体的な方法でございまして、昨年度千葉県で下校中の児童の列にトラックが突入し、5名の児童が死傷するという大変痛まし



い事故が発生しておりました。この事故を受け、室蘭市では同様の事故を防ぐために広く児童の皆さんから登下校の通学路で日常危険を感じている点がないか聞き取り調査を行わせていただいて、そこから挙げられた約30か所の点検を行ったところでもございます。

教育委員会といたしましては、毎年通学路で交通事故や犯罪の危険性のある箇所を、警察や道路管理者などの方と合同で点検を行っておりますが、その点検前に広く児童生徒の皆さんから登下校中に不安を感じていることの相談を受けてから実施するように工夫するなど、そのようなことも行ってまいりたいと考えております。

加えて、日頃から登下校中に感じている不安を学校に相談してよいことを児童生徒の皆さんにしっかりともう一度お伝えをし、教育委員会といたしましても寄せられた相談を聞き取りながら児童生徒の皆さんが安全・安心に通学できる環境づくりを進めてまいります。

以上でございます。

**○子ども議長(長井 悠)** 青山市長

**○市長(青山 剛)** 私のほうからもお答えをさせていただきます。

初めに、滋賀県が進めておりますまちを明るくする運動のような安全対策を本市で進めていく考えについてであります。全国的にも外灯点灯運動や一戸一灯運動という名称で取り組んでいる自治体がありますが、各家庭の費用負担や節電対策の視点、事業の継続性などが課題となっております。いずれにいたしましても住民、市民の皆さん方の御理解があつての取組だというふうに考えております。

また、安心・安全の本市独自の取組といたしましては、昨年度から室蘭市、登別市、室蘭警察署の3者で協定を結びまして、ドライブレコーダー搭載車両による町の見守り活動を新たにスタートしております。バスやタクシー、ごみ収集車など、24事業所600台以上の車両

が業務を兼ねて市内を走行する、言わばながら見守りといったようなことで地域の見守りの目を増やし、犯罪の防止、抑止につながっているところであります。

続きまして、若者の市外流出について、新たな取組をしていかないと先がないといったような趣旨の御質問をいただきました。

大学の総合大学化といったようなことはなかなか難しいのは実情でありますけれども、例えば最近でいうと、室蘭工業大学におきましては宇宙産業であったり、ロボット、あるいはIoTなど、これからの時代の要請にしっかりと合わせた特色あるプログラムに取り組むことで、道内外から多くの若者の入学を促しているといったようなことがあります。

また、若者の定住といったような部分では、必ずしも大学等に入学するという以外にもあるかというふうに思っております。

例えば、一度東京など市外のほうに出られた後にUターンしてくる、UIJターンという取組をしておりますけれども、例えば先般も皆さん方の先輩、室蘭で生まれ育った方が10年間東京でIT系の企業を起こしまして、リモートワークといった時代の要請に合わせて室蘭で拠点を構えるといったようなことを発表していただいたところであります。

そしてまた、新聞でも報じられておりますけれども、パナソニックITSという会社がありますけれども、大手電機メーカーの関連企業でありますけれども、本市出身の方が何とか地元社会課題、地域の課題の解決をとといったようなことで室蘭に拠点を設けていただきまして、新たに7名の雇用につながったことがあります。

したがいまして、そのような地道な時代の要請に合わせた取組といったようなことも実際に成果を上げておりますので、市としても様々な形で今後支援をさせていただきたいというふうに考えてございます。

いずれにいたしましても、今後も選択と集中の視点を持ちながら新しいことにもしっかりとチャレンジしながら、内外から関心、魅力を持っていただけるようなまちづくりの推進に努めてまいります。

以上であります。

**○子ども議長(長井 悠)** 次に進みます。

通告がありますので、発言を許します。

翔陽中学校 工藤 航樹議員並びに木村 賢太郎議員

**○5番(工藤 航樹)**(登壇) 翔陽中学校3年の工藤 航樹です。

翔陽中学校を代表して、私たちから魅力のあるまちづくりの一つとしてハイウェイオアシスの建設について、また道の駅みたら室蘭の活性化についても伺いたいと思います。

現在、室蘭市では人口減少が進んでおり、外部から人を呼び込むための手段が必要だと考えます。また、観光業による収入増加も必要になっているのではないのでしょうか。

そこで、私たちは本輪西パーキングエリア付近にハイウェイオアシスを建設する案を考えました。今日も日本の多くのパーキングエリアにはサービスエリアが併設され、その地域の特産品が売られることも少なくありません。パーキングエリアがきっかけで行きたい場所が増えたという人も少なくないでしょう。

しかし、室蘭の本輪西パーキングエリアにはそのような施設が全くありません。

例えば、砂川ハイウェイオアシスには有名な製菓メーカーの北菓楼や砂川グルメのポークチャップが食べられるレストランがあったり、取れたての野菜を買うことができる直売所があったりしました。僕が先日行ったときには子供から大人までいろいろな人が訪れていました。

本輪西パーキングエリアにも同じような施設ができれば、室蘭の魅力をもっと伝えていけると考えています。

また、ハイウェイオアシスの建設が資金や立地などで難しい場合、みたら室蘭の活性化を提案したいと思います。

**○6番(木村 賢太郎)**(登壇) 替わりまして、翔陽中学校の2年、木村 賢太郎です。

皆さんは室蘭の有名なグルメといえば何を想像しますか。多くの人が室蘭やきとりやカレーラーメンを想像するでしょう。先日秘密のケンミンSHOWというテレビ番組でも放送されていたほど、これらのグルメは全国的に有名になりつつあります。

多くの人々は、しょっぱいものを食べると甘いものも欲しくなるでしょう。そして、道の駅では現在うずらプリンやソフトクリームが販売されています。

今後、道の駅みたら室蘭を活性化させるために有名な企業を招致してはいかがでしょうか。本輪西パーキングエリアのように、みたら室蘭にもわかさいもや草太郎などの製菓メーカーの招致や、室蘭やきとりやカレーラーメンが食べられるレストランの建設、今あるプリンやソフトクリームのPRなどを行ってはいかがでしょうか。また、みたら室蘭限定の商品を置くことでも観光客は来てくれると思います。

今あるものをうまく活用して税収を増加させていきましょう。そして、北海道中に、日本中に室蘭市の魅力を伝えていきましょう。

以上、お伺いいたします。

**○子ども議長(長井 悠)** 答弁を求めます。

青山市長

**○市長(青山 剛)**(登壇) 翔陽中学校 工藤議員、木村議員の御質問に順次お答えをさせていただきます。

初めに、本輪西パーキングエリア付近へのハイウェイオアシスの建設についてのお尋ねですが、近年全国的にも高速道路のサービスエリアは様々な形の充実が図られてきているところでありますが、本市による本輪西パーキン

グエリア付近への整備は建設資金の確保や、民間投資の場合には事業の採算性など、クリアすべき課題も多いというふうに考えてございます。

実は今回の御質問で通告をいただいておりますので、私も実際に現地を見させていただいたところでもあります。特に室蘭の本輪西パーキングエリア、今はトイレと喫煙ルームがあって、お休みされる方が利用されているといったようなことでございますけれども、当該区間——登別室蘭インターから伊達インターチェンジ区間の18キロを4車線へ拡幅するという国の大きな計画が今ございまして、例えばその事業の一環の中で国あるいはNEXCO東日本といった関係事業者といろいろ協議、相談をしながら、お話のありましたハイウェイオアシス化、片側になりますけれども、お話する、御相談することもこれからできるのではないかなというふうに思ったところでもあります。

また、議員からお話がありました道の駅みたら室蘭についても、高速道路を降りまして白鳥大橋を通ったすぐそばにあるといったようなことで、これまでもリニューアルを行って、徐々に利用者の数も増えているところでございます。今年からはRVパークを新たに設置させていただいたといったようなことでございます。

昨年、一昨年はコロナ禍もあって、非常に利用客が伸び悩んだところもありましたけれども、ウイズコロナ、アフターコロナの中でも時勢に合った様々な取組をする中でより魅力ある道の駅みたら周辺地区といったようなことを考えていく上で、今、市としてもプロジェクトとして取り組んでおります洋上風力発電も隣接地に拠点を考えてございますので、ものづくり室蘭の拠点として産業観光の視点も入れていくことで、より多くの集客を期待できるのではないかなというふうに考えてございます。

また、次にみたらの活性化について、製菓、グルメを扱う企業の招致についてでございます

けれども、他の企業を招致するといったようなところも一つの考え方であると思う一方で、やはり地元で今営業している企業を伸ばしていくといったようなところもまちづくりにとっては大変大事な視点だというふうに思っております。

一例を申しますと、室蘭うずら園さんの協力によりまして、道の駅みたら室蘭のリニューアルに合わせてうずらんソフトが多い日では1日1,000個以上売れるといったようなことで、この地域の特産品がスイーツを通して発信されるといったようなこともあります。

したがって、まずは地元の企業を伸ばすという視点、場合によってはお話がありました他の企業を誘致しながら、この周辺の夜景観光、主塔見学、アウトドアも含めた魅力の向上に努めていきたいと考えております。

また、集客の仕組みについても、道の駅という機能に合わせて、お話をさせていただきましたゆらだとか、主塔見学、そしてまた釣り観光といったような新しいオプションも今、本市では取り組んでおりますので、本市ならではの魅力ある観光施設といったようなことに努めていきたいというふうに考えてございますので、御理解を賜ればというふうに思います。

私からは以上です。

**○子ども議長(長井 悠)** 翔陽中学校 工藤航樹議員並びに木村 賢太郎議員

**○5番(工藤 航樹)**(登壇) それでは、再質問及び再提案をします。

まずは、先ほど洋上風力発電の拠点化を産業観光、教育観光による魅力発信の機会と捉えているとの答弁がありましたが、洋上風力発電が観光の材料にもなると考えているということでしょうか。具体的に観光面においてどのような効果が見込まれていると考えているのでしょうか。

また、洋上風力発電自体は観光のために設置しようとするものではなく、市内各産業への経

済的な効果など観光以外の効果が見込めるとは  
思いますが、建設コストと観光収入等の見込み  
のバランスは取れているのでしょうか。

**○6番(木村 賢太郎)**(登壇) また、道の駅  
みたら周辺の活性化について、さらに1点提案  
をしたいと思います。

先ほどの答弁でも、みたら周辺に集積する施  
設の一つとしてRVパークが挙げられており、  
ただいまキャンプブームが話題となっています。  
そのキャンプブームにちなみ、大黒島を利用し  
た無人島キャンプなどを企画してはどうかと考  
えますが、見解をお伺いいたします。

**○子ども議長(長井 悠)** 答弁を求めます。

青山市長

**○市長(青山 剛)** それでは、再質問につい  
てお答えをさせていただきたいと存じます。

初めに、洋上風力発電の拠点化と観光との関  
係についてであります。

実は3年ほど前に私はヨーロッパ——デンマ  
ークのエスビアウという町を訪問させていただきました。今ヨーロッパは洋上風力拠点化が進  
んでいる町がたくさんあるので、実際に行っ  
てみました。例えるならば、白鳥大橋の主塔と  
同じぐらいの高さの風力発電の主塔——タワー  
が並んでいるといったようなことで、その光景  
も大変圧巻なものであります。

また、みたら室蘭の周辺地区におきましては、  
今年の5月15日に祝津埠頭を新たに整備いた  
しまして、大型クルーズ客船が寄港できるよ  
うな岸壁の整備改修も行ったところであります。

少しコロナが落ち着いてくると、約22万ト  
ン級の大型クルーズ客船4,000人~5,00  
0人が乗ってくる、海外のお客さんが本市を  
訪問していただけるというふうに想定してござ  
います。

例えば、外国、とりわけ欧米のお客さんにつ  
きましては、その町が環境にどのような理解を  
示しているか、どのような取組をしているのか

といったようなことから選ばれる、そんな時代  
がこれから来るというふうにも伺っております。

したがって、ゼロカーボン、脱炭素の取  
組のシンボルとしての洋上風力発電に室蘭が取  
り組んでいるといったようなことを一つ契機に  
しながら、目的地として室蘭を訪れていただけ  
るというふうにもつながっていくのではないの  
かなというふうに思います。

また、室蘭の観光の特色としては、例えば道  
内の他の観光地とは違ってものづくり、工業都  
市の町でありますので、例えば、産業観光、も  
のをつくっている生産活動の様子を実際に大迫  
力で見させていただくといったようなことも観光客  
の皆さんの心に響くのではないのかなというふ  
うに考えております。

そういう観点から、具体的な試算はしてござ  
いませんけれども、そういったところで多くの  
誘客を図っていきたいというふうに考えており  
ます。

続きまして、大黒島を利用した無人島キャン  
プの提案であります。

大変ユニークな企画提案だというふうを感じ  
たところであります。私もテレビで、本当に電  
気もないような無人島で1人、ソロキャンプと  
言うのでしょうか、1人でキャンプをする、そ  
んなような映像を拝見したことがあります。

室蘭の港の中心にある大黒島、玄関口にある  
大黒島を観光の拠点にといったようなところは、  
これまでも度々議論をいただいたところであり  
ます。

ただ一方で、かなり老朽化が進んでおりまし  
て、岸壁、あるいは灯台はもちろんであります  
けれども、それにアクセスする階段などの整備  
には多額の費用がかかるのも実際であります。

したがって、投資対効果といったようなこと  
も吟味しながら、それらの課題をクリアでき  
た際には、議員の提案について実現すると、室  
蘭の観光の大きな魅力の一つになるのではない  
か

というふうに考えております。

以上です。

**○子ども議長(長井 悠)** 暫時休憩いたします。

午後 2時10分 休憩

午後 2時25分 再開

**○総務課長(齋藤 昌志)** 再開に先立ちまして、子ども議長が交代いたしますので、御挨拶があります。

室蘭中学校 間宮 隆世議員、お願いいたします。

**○子ども議長(間宮 隆世)**(登壇) 本日、室蘭市子ども議会議長を務めさせていただきます室蘭中学校3年、間宮 隆世です。どうぞよろしく申し上げます。

(間宮 隆世 子ども議長議長席に着く)

**○子ども議長(間宮 隆世)** 休憩前に引き続き、会議を開きます。

通告がありますので、発言を許します。

室蘭中学校 後藤田 勇大議員並びに石澤希歩議員

**○4番(石澤 希歩)**(登壇) 室蘭中学校3年の石澤 希歩です。

室蘭中学校を代表して、私から映画館の休業など若者たちの憩いの場が減少していることから、憩いの場としての大型ショッピングモールの誘致について質問いたします。

室蘭市には映画館が1つしかなく、そのため今回の休業により見たかった映画を見られなくなった私は、札幌の休業していない映画館へ足を運びました。特に今の時期は面白い映画がたくさん上映されるので、夏休みを使って市外の映画館へ足を運ぶ人は多いと思います。

これは映画館に限ったことではなく、アパレル系の店やCDショップ、本屋、雑貨屋などの

店舗数が少ないものも同じです。ショッピングセンターモルエ中島は店が増えてきているものの、欲しいものが見つからず、探すこともできず、店舗数の多い札幌などの都市へ買物に行く人が増え、そのまま都市のよさに引かれ、住みたいと若い人たちが流れていってしまうと思います。これは室蘭市の人口減少や少子化に拍車をかけるだけでなく、地域経済の衰えにもつながっていると考えました。

そこで、都会へ勉強するために出ていった若者たちがまた戻ってきたいと思えるようなまちづくりのため、若者たちが買物を楽しめる様々な店舗が集まった大型ショッピングモールが必要だと思います。

人口の少ない町に民間企業が来てくれるか、ショッピングモールの働き手は足りるのかという懸念はありますが、登別や伊達などの周辺地域から室蘭へ買物に来る人が多いので、ショッピングモールが完成して話題になれば集客はかなりの量になると思われます。

また、大型ショッピングモールの建設となると土地が足りるのかということも問題になってきますが、私は人口減少で閉校してしまった学校の跡地や空き家など、使われていない土地は室蘭に多いので、それらの土地を有効活用できると考えました。

そこで質問ですが、市内に買物を楽しめる場所が増えれば都市まで買物に行こうとする人の流れが抑えられると思うので、大型ショッピングモールの誘致についての考えを教えてください。

**○3番(後藤田 勇大)**(登壇) 室蘭中学校3年の後藤田 勇大です。

室蘭中学校を代表して、私からは室蘭を広くPRするために行っている対策について質問いたします。

室蘭は美しい自然あふれる観光スポットや隠れた名店などたくさんの魅力にあふれていると

感じます。特に北海道の自然100選で第1位になった地球岬やトッカリシヨの絶景は、日本屈指の大自然としてテレビ番組で取り上げられるなど、北海道でも有数の観光スポットとなっています。

その一方で、中央町は商店街に隠れた名店や自慢したくなるお店があるのにもかかわらず、蘭東地区に比べて人けが少なく、あまり知られていないのではと感じ、これは非常にもったいないことだと思いました。

僕たちがいずれ進学や就職などで室蘭を離れてしまっても、また住みたいな、新しくできる友人に自慢したいなと思える室蘭であり続けるためには、商店街や観光地が室蘭以外の人や地元の人でにぎわうようになることが重要だと考えます。そのためには、人口減少を抑えることも大切なことですが、たくさんの人に室蘭を訪れてもらうきっかけとして、地元の人も含めた多くの人に室蘭という町や中央町を知ってもらうためのPRをしていくことが大切だと考えます。

そこで質問ですが、今現在室蘭市を広くPRするために行っている対策などはあるか教えてください。

**○子ども議長(間宮 隆世)** 答弁を求めます。

青山市長

**○市長(青山 剛)**(登壇) 星蘭中学校 石澤議員、後藤田議員の質問に順次お答えをさせていただきます。

初めに、大型ショッピングモールの誘致についてであります。近年室蘭市内の商業を取り巻く環境を見ますと、昨年はモルエ中島エリアに新たな店舗が加わるほか、ニトリ室蘭店のリニューアル移転や、地元商店街等でも新たな個店を開業する動きも見られます。

議員御指摘のとおり、大型ショッピングモールの出店につきましては、地域住民の便利さや楽しさ、憩いの場の提供など、大きな町の魅力

向上につながるものというふうに考えておりました。今後はイオン室蘭店の移転新築が計画されているなど、町のにぎわい創出に大変期待しているところであります。

一方で、大型商業施設が増えた場合の課題もあり、エリア間での競合や地元個店への来客の減少、また商店街衰退のおそれも考えられるところであります。市といたしましては、大型商業施設と地元商店街、個店の共存共栄を図っていくために、どのような対策を講じたらいいか留意しながら引き続き商業対策を検討していきたいと考えております。

次に、室蘭を広くPRするために行っている取組についてお答えをさせていただきたいと思えます。

現在では、旅行雑誌などへの情報掲載、各種観光パンフレットの作成、都市イベントでのプロモーション活動、プロモーション動画の発信、さらには写真イベントであります撮りフェスや、市SNSを通じて内外の方に対して室蘭の魅力の情報発信を行っているところであります。

特に、昨年は環境科学館・図書館、新体育館と新たな公共施設がオープンし、今月には東町イタンキに新しい市場も開設されるところであります。多くの皆さん方がそのような新しい施設を利用していただくといったようなことも、町を発信する一つだというふうに考えております。

お話のありました中央地区につきましては、これら施設ができたことから、先ほども御答弁をさせていただきましたけれども、町を歩くパンフレット・コースなんかも設定しておりますので、そういったようなところも発信をしていきたいというふうに思っております。

SNSでの発信といったようなことも大切でありますけれども、SNSは言わばツール——道具でありまして、やはり町の魅力を発信するためには、まずはこの町のよさ、長年市民の皆

さんがよくよく見ている、例えば先ほどお話がありました地球岬やトッカリショといったように長年にわたって室蘭の魅力を支えてきていただいた、そういったようなもの、あるいは人や事などもしっかりと見つけて、さらに磨きをかけて発信することが何よりも大切だというふうを考えているところであります。

いずれにいたしましても、今後も様々な工夫を凝らしながら室蘭地域の魅力発信に努めてまいる考えであります。

以上です。

**○子ども議長(間宮 隆世)** 星蘭中学校 後藤田 勇大議員並びに石澤 希歩議員

**○4番(石澤 希歩)**(登壇) それでは、大型ショッピングモールに関し再質問いたします。

大型商業施設を買物や娯楽などを目的とした地域住民を中心とした施設、地元商店街、個店を室蘭の特色や風情を全面的に出した観光客を中心とした施設というように、対象を区別すれば来客が分散され、2つの共存が可能と考えます。

そこで質問ですが、民間企業や地元商店街等を市はどのように支援していきますか、教えてください。

**○3番(後藤田 勇大)**(登壇) 次に、室蘭をPRするための対策について再質問いたします。

現在、室蘭市では商店街や観光地をいろいろな人に知ってもらうために、パンフレット、チラシの作成、イベントでのプロモーション活動などが行われていることが分かりました。そこで、僕たちにも何かできることがあるのではないかと思います。

そこで質問です。この町をより深く知る必要があるとは思いますが、僕たちができることは何かありませんか、教えてください。

**○子ども議長(間宮 隆世)** 答弁を求めます。

青山市長

**○市長(青山 剛)** 2点の再質問につきまし

て、私のほうからお答えをさせていただきたいと存じます。

初めに、大型ショッピングモールの誘致についてのお尋ねでありますけれども、大型ショッピングモール、あるいは大型商業施設の誘致に向けた市の支援といたしましては、基本的には企業が求める支援策を都度丁寧に伺いながら、ケース・バイ・ケースでの対応が必要になるものというふうに考えてございますし、また商業施設、営利目的で立地されるところに対して、どのような形の支援策が必要なのか、あるいは市としてどこまで関わっていけるかといったようなことも個々の判断が必要になるというふうに考えております。

最近の例で言うと、例えば東町の言わば一等地の市営住宅跡地、言わば市の公有地に、ニトリの移転新築で市の土地を活用していただくといったようなことも最近のお話であります。

また、今後予定されております日の出町の現室蘭市場の跡地にイオン室蘭店の移転新築につきましても、必要な広さのある立地の良い土地、市の物件に長期的に賃借いただくことで、市外に移転することなく、新たなモール新設計画につながったものというふうに考えてございます。

また、商業施設等の誘致につきましては、地元商店街や経済団体、個店なども連携を図りながら丁寧に対応してまいるところであります。

とりわけ一昨年来から続くコロナ禍の関係でありますけれども、新型コロナウイルスの関係で市内の商業者、飲食者含めて大変大きな打撃を被ったところでございまして、市といたしましてそういった皆さん方を迅速に御支援させていただくように新型コロナ交付金を活用しながら、例えばプレミアム商品券など、地域の消費活動の促進といたしまして、触発するような取組なんかもさせていただいたところあります。

いずれにいたしましても、この地域の皆さん

方が地元でお買物ができるような、そんな取組にしっかりと対応していきたいと考えております。

次に、室蘭をより深く知るために、皆さん方に取り組んでいただきたい、希望することについて少しお話をさせていただきたいと思っております。

いろいろな方法があるかと思っております。皆さんも既に利用されているスマートフォンから、例えばSNSを通して室蘭の美しいところ、きれいなところを、あるいは面白いところを発信していただくといったようなところも一つのすぐに取り組める取組なのかなというふうにも思うところでもありますけれども、ただその基本にあるのはやはり町のよさを皆さん自らがしっかりと探して見つけて、それをやっぱり学ぶところにまずあるのかなというふうに思います。

最近の観光に関わる取組を2つ紹介させていただきたいと思っておりますけれども、例えばこの10数年来取組を進めております工場夜景のことについてであります。ものづくりのマチとして発展したこの室蘭も、工場の明かりが美しいというのは、何となく市民の皆さんが感じていたものの、それが当たり前だと思っていてあまりよさが発信されなかったのですけれども、外部の人方、市外の人の視点も入れて、それが美しいといったようなことで写真を通して室蘭の工場夜景が発信されて、今では多くのお客さんに来ていただいているといったようなことがあります。

また、白鳥大橋の主塔見学についても触れさせていただきたいと思っておりますけれども、昨年からモデルツアーを実施しております。平成10年に開通した私たちの財産であります白鳥大橋でありますけれども、これまでは車で通ったり、外から見たりするのが白鳥大橋の魅力でありましたけれども、実際にこの中に入ってみると、ものづくりのマチ室蘭でつくられた白鳥大橋のす

ばらしさといったようなこと、あるいは高さ100メートルのところから見る室蘭港の魅力なんかも、実際に機会があれば皆さんにも見ていただいて、その魅力を学び、そして先ほど言ったSNSなどの媒体で発信をしていただくことが室蘭の魅力発信、そのような試みをできれば市民の皆さん一人一人が取り組むことで、より室蘭の魅力が内外に発信できるものと考えております。

以上であります。

**○子ども議長(間宮 隆世)** 次に進みます。

通告がありますので、発言を許します。

港北中学校 成田 彪議員並びに白木 元議員

**○11番(成田 彪)(登壇)** 港北中学校3年の成田 彪です。

港北中学校を代表して、私たちからは室蘭の人口減少について質問いたします。

私たちが生まれたのは平成19年と平成20年です。平成20年の室蘭市の人口は9万6,552人。現在の人口は7万9,589人と、人口は8万人を切りました。平成20年から令和3年の今年2月までで実に1万6,963人の人口減少が見られました。

僕が日頃から人口減少を感じている点は幾つかあります。

まず1つ目は、高校の間口の削減です。僕たち今の3年生の高校受験に伴い、室蘭栄高校の定員が1クラス分(40人分)減るということです。子供の人口減少による受験者数の低下で偏差値が保てなくなっていることが原因のようですが、例年であれば栄高校に入っていたような生徒がほかの高校を受験することにより、この地域全体の高校受験で影響を受けます。

2つ目は、僕の通っている港北中学校の部活動の話です。僕が入学する前にサッカー部は廃部となり、野球部は部員数が足りないため他の中学校との合同チームでの活動を余儀なくされ



ています。このように、少なからず人口減少の影響を僕たちは受けています。

まず、そもそも人口減少は死亡者数と出生数の差で起こる自然増減と、町から出ていく人の数と町に入ってくる人の数の差で起こる社会増減の2つの理由に主に分かれています。

まず、自然増減による人口減少を解決するには、女性が子供を産みやすい環境をつくることが一番の近道だと思います。女性や男性どちらの不安も解消し、女性が子供を安心して産めるようになれば、おのずと出生数も増加するはずだからです。

そして、社会増減による人口減少を解決するためには、今の小中高生に対して就職の幅を広げるような学校教育が大事だと思います。室蘭市に就職する企業が少ないわけではなく、就職できる企業があることを知らないだけだと思います。

僕の考えを踏まえて、今行っている政策について教えてください。

**○子ども議長(間宮 隆世)** 答弁を求めます。

青山市長

**○市長(青山 剛)**(登壇) 港北中学校 成田議員、白木議員の質問に順次お答えをさせていただきます。

室蘭市の人口減少についてのうち、初めに子供を産みやすい環境づくりについてであります。私も少子化対策には子供を産み育てやすい環境の充実が重要であるというふうに考えておりまして、市長就任以来、子育て支援策に力を入れてきたところでございます。

現在は子育て応援プランに基づき、子供の医療費助成や公共施設使用料の無料化、新婚や子育て世代に対する家賃の助成など、様々な取組を試行錯誤させていただいているところであります。

また、近年では産み育てやすい環境づくりに加えまして、新たな出会いの場のサポートとい

ったようなことも実際には若い方にも大変注目をいただいております、それがまた結婚、出産につながるような取組も市ではさせていただいているといったようなことであります。

今後も社会情勢の変化に対応し、必要な支援策を講じることで、子育て世代が住みやすい、住み続けたいと思えるまちづくりを進めてまいりますと考えております。

続きまして、小中高生の就職の幅を広げる学校教育についてであります。

まず、室蘭のどのような企業、働く場所があるのかといったようなことを子供たち、若者たちに知っていただく取組ということで、室蘭のものづくり企業の紹介をてついくといったようなプロジェクトで、今から五、六年近く前から取組をさせていただいております、最近ではオンラインでも工場あるいは室蘭の企業を知る、そういったようなコーナーもつくりまして、皆さん方が知るきっかけづくりにも取組をさせていただいているところであります。

やはり人口定住には雇用の場、働く場所の確保といったようなところで、先ほど来お話しさせていただいておりますけれども、どうしても室蘭は製造業が多いわけでありましてけれども、最近では学校でもプログラミング教育といったようなことが始まったとも承知をしておりますので、例えばIT系の企業だとか、プログラミングにつながるような企業の業種の拡大といったようなことも進めさせていただいております、室蘭工業大学のみならず、そういったような企業、あるいは関係するところに誘致、働きかけをいたしまして、皆さん方の将来の働く場の拡充に今取り組んでいるところでございます。

以上であります。

**○子ども議長(間宮 隆世)** 港北中学校 成田 彪議員並びに白木 元議員

**○12番(白木 元)**(登壇) 港北中学校2年生、白木 元です。

室蘭市の人口減少について再質問します。

先ほどの市長の御答弁で、室蘭市でも人口減少対策として子育て支援や地元企業について学ぶ環境の整備など、いろいろな取組をしていることが分かりました。これからもこのような取組をどんどん広げて行ってほしいと思います。

最後に、市長にもう少し伺いたいのですが、僕は若い人が都会に出ていってしまう原因の一つに都会の生活利便性があるのではないかと考えます。大学進学などをきっかけに都会に行き、都会の利便性を体験した若い人はなかなか室蘭に帰ってこようとはしないように思います。

先日はこの町で唯一の映画館が一時閉鎖になりましたが、人口が減っていく町では若い人たちが求めるお店などもどんどん減っていくように感じます。学生や若者目線の考えとしては、大型チェーン店の企業進出で室蘭に支店が設置されたり、友人と遊べる場所が増えると住みや楽しく楽しい町になると思います。

また一方で、室蘭には豊かな自然やきれいな景色、おいしい食べ物など、都会にはない魅力もたくさんありますが、このようなことに気づいていない人も多いように思います。

若い人が町に残ったり、将来帰ってきたりするためには、若者が求めるサービスを維持していくことや、都会にはない室蘭の魅力を知ってもらうことが必要だと思うのですが、市長の考えを教えてください。

**○子ども議長(間宮 隆世)** 答弁を求めます。

青山市長

**○市長(青山 剛)** 再質問に私のほうからお答えをさせていただきたいと思います。

若者の人口定住に対する私の考えといったようなことであります。特にいろいろお話がありましたとおり、市内唯一であった映画館が閉鎖に追い込まれるといったような事態については本当に残念である一方で、時代の変化といいま

しょうか、例えば映画館に足を運ばずとも家で、あるいはスマホやいろいろなインターネットサイトなんかで映画とか動画なんかを気軽に視聴できるような社会の変化といったようなところも我々は考えなくてはいけないのかなというふうにも感じるところであります。

若い皆さん方はじめ、若い市民の皆さんからお話を伺う機会がたくさんあります。今日もいろいろと御質問をいただきましたけれど、例えばショッピングモールが欲しいですよ、量販店が欲しいですよ、チェーン店が欲しいですよといったようなことも伺いながら、例えば市としては側面的に市有地の確保、市の土地を使って誘致をするなどの取組も、これまでも進めてきましたけれど、まだまだ十分であるというふうには思っておりません。ただただそういったような都会にあるものをそのまま持ってくるというのも、若い人の希望であるのを分かりながらも、例えば室蘭らしい魅力といったようなことを皆さんが見つけて楽しむことも非常にすばらしいことだというふうにも考えております。

したがって、子供のときに体験したこのふるさとでの経験を、将来大人になって、もしかしたら一度は札幌や東京など市外に出ることがあっても戻ってきたいと思えるような、そういったようなまちづくりを進めていかななくてはいけないのかなというふうに思っております。

私を感じる場所は、昔、まちづくりの先輩から伺ったのは、町を相手に楽しく遊ぶといったような言葉を聞いたことがあります。この室蘭の魅力をいろいろと、それぞれが取り組みながら様々な形で町に関わることで、特に室蘭の町は本当に私はすばらしいと思うのは、例えば自分で何か新しいことをしたいといったようなことに対して、周りの地域の方、あるいは大人たちがみんな応援してくれるような、そういった優しい町だというふうに私は考えておりまして、例えば自己実現と言いましょうか、自分

がお店を持ちたいのだといったようなときに、いろいろとお手伝い、サポートするような体制を築いていくことも市としても取り組んでいるところでもあります。

いずれにいたしましても、市民の皆さん、特に若い皆さんが室蘭にこれからも住んでいきたいというふうに見えるような魅力あるまちづくりにしっかりと取り組んでいきたいと考えております。

以上です。

**○子ども議長(間宮 隆世)** 次に進みます。

通告がありますので、発言を許します。

東明中学校 長井 悠議員並びに工藤 慎太朗議員

**○7番(長井 悠)**(登壇) 東明中学校3年の長井 悠です。

**○8番(工藤 慎太郎)**(登壇) 東明中学校2年の工藤 慎太郎です。

**○7番(長井 悠)**(登壇) 東明中学校を代表して、私たちからは地震・津波等における避難所について質問いたします。

室蘭市では、令和4年3月までに全世帯にハザードマップが配布されました。これによると、東明地区でも以前に比べ津波の浸水想定範囲が広がりました。

私の曾祖母の家も浸水想定範囲の地域に入っていました。曾祖母は97歳で独り暮らしをしています。2018年北海道胆振東部地震の際に、広報車が回り高砂地区の避難所は旭ヶ丘小学校とアナウンスしていました。グーグルでは曾祖母の家に近い旧高砂小学校から旭ヶ丘小学校までは徒歩で21分となっております。しかし、これは心身ともに健康な成人の場合ですし、歩道も狭く、坂もあるので車椅子で避難することは難しいと思われます。ライフラインも途切れ、家族や周囲の助けが得られにくい状況だったと考えられます。避難所に行きたくても避難できなかったお年寄りや障がいを持った人もい

たのではないのでしょうか。

市長は常日頃から安心・安全なまちづくりを掲げていますが、災害時には避難所としての役割を果たしているのでしょうか。見解をお伺いします。

また、災害時の避難先の一つとして小学校などの避難所があり、若い方や健康な方であれば問題なく避難できると思いますが、高齢者や障がいを持った方の中で独りで避難できる方は限られていると思います。誰かが付き添わないと避難できない人は誰が手助けをするのでしょうか。

最近では、私の地域でも町内会の役員や民生委員の高齢化も進んでいると聞いています。そのような中で具体的な援助方法は示されているのでしょうか。

また、私たち中学生や高校生が支援できることはあるのでしょうか。市長のお考えをお聞かせください。

**○8番(工藤 慎太郎)**(登壇) 室蘭市では今後、日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震による津波の影響が予想されています。私はこの防災ハザードマップを学校の社会の授業で見ました。私が住んでいる高砂町は一部が鷺別川に近く、津波災害警戒区域になっています。高砂地区は高台に近いため、多くの人が津波が到達する30分以内に高台への避難が可能だと考えられます。

しかし、高砂町の隣にある日の出町や寿町は海に近く、高台への避難をするには海岸線を並行に走っているJRの線路を越えなくてはなりません。線路を越えられる場所は太平橋、寿橋、東室蘭駅のわたれーる、鷺別アンダーパスと限られており、30分以内にこれら4つの場所を使って避難しなければなりません。この短時間に日の出町と寿町の住民約5,600人を安全に避難させる方法はどのように考えているのですか。

この地域には津波避難ビルが少ないのが現状です。今後室蘭市公設地方卸売市場が移転し、その跡地に大型ショッピングモールが建設されることになっていますが、この建物の屋上を津波避難ビルとして活用することは考えていますか。

また、多くの人が線路を越えて避難できる橋などを設置することは考えているのでしょうか、お伺いいたします。

**○子ども議長(間宮 隆世)** 答弁を求めます。

青山市長

**○市長(青山 剛)**(登壇) 東明中学校 長井議員、工藤議員の質問に順次お答えをさせていただきます。

初めに、地震・津波等における避難所についてであります。市が開設する避難所は人口分布にも配慮した10か所としておりますが、新型コロナウイルス対策として受入れ人数を減らすことが求められておまして、避難所数を増やす必要がありますので、市内に15ある地区連合町会を通して地域の方々による避難所の開設運営に協力をいただけるようお願いしてございまして、今後も協議を進め多くの避難所を設置できるように努めてまいります。

次に、支援が必要な方への具体的な方策についてであります。昨年法律改正によりまして、障がい者や高齢者など自力での避難が困難な方に、個別に避難支援の方法などを定めておく個別避難計画の策定が努力義務とされましたが、個人情報の問題や支援者の確保が困難であることなどが課題として多く、計画策定が進んでいない実情であります。

しかしながら、近年頻発する大規模災害におきまして、逃げ遅れて犠牲となる高齢者が相次いでおりますため、今年度自主防災の取組を進めている地域の皆さんの協力をいただきながら、計画策定の取組に着手したところであります。計画作成には多くの時間が必要となりますが、

地域の特性や実情を踏まえつつ着実な計画の作成を進めてまいります。

次に、皆様に何を協力いただけるのかというお尋ねでありますけれども、やはり災害時に円滑にお互い助け合うためには日頃から顔の見える関係が大事であるのかなというふうに思います。

例えば、地域において皆さん方の生徒会活動、あるいは地域のお祭りだとかの行事を通しながら、地域のお年寄りの皆さんや中学生、子供たちがふだんからコミュニケーションを取っているときに、例えばいざ災害が発生したときに、あそこうちに独り暮らしのおばあちゃんがいるな、おじいちゃんがいるなといったようなことを思い出すことが一人でも多くの皆さん方の避難誘導につながるのではないのかなというふうに思いますので、ぜひそういったような声かけができるような関係づくりを、様々な生徒会活動などを通して考えていただければ、非常に地域としてはありがたい、心強いものというふうに考えております。

次に、日の出町、寿町といった東地区における避難対応につきまして、主な避難場所については、市営住宅や東室蘭駅のわたれーるなどの津波避難ビルのほか、津波災害警戒区域の外にある公園や民間施設も避難先としてございまして、市場跡地のショッピングモールの建物につきましても、現在津波避難ビルとして使用できるよう事業者と協議を進めているところであります。

次に、線路を越えて避難できる橋の設置の考え方についてであります。津波対策として施設整備は有効であります。一方でその整備については多額の費用や時間を要することから、室蘭市に加え国や北海道との連携が必要になるというふうに考えてございまして、北海道においても、とりわけ太平洋側は地震や津波対策が喫緊の課題でありますことから、国や道への要

望活動も重ねながら、地域の皆さん方が安心して  
きるような取組に努めてまいる考えであります。

以上です。

---

**○子ども議長(間宮 隆世)** 以上で、本日の  
日程は全て終了いたしました。

令和4年子ども議会を閉じるに当たり、一言  
御挨拶を申し上げます。

**○子ども議長(長井 悠)**(登壇) 皆様のおか  
げで無事議事進行を務めることができました。  
ぜひ、このような取組をこれからも続けていっ  
てほしいです。本日はありがとうございました。

(拍手)

**○子ども議長(間宮 隆世)**(登壇) 本日、こ  
のような議会の場に参加できたことを大変うれ  
しく思います。このような経験は後の自分たち  
の生活に生きてくることだと思っています。今  
回この子ども議会を運営して下さった市役所  
の役員の皆様、私たちをサポートしてくださ  
った先生方ありがとうございました。(拍手)

---

**○子ども議長(間宮 隆世)** これをもちまし  
て、令和4年室蘭市子ども議会を閉会いたしま  
す。

---

午後 3時06分 閉会

上記会議の記録に相違ないことを証するため、  
ここに署名する。

子ども議長 長井 悠

子ども議長 間宮 隆世

署名議員 白川 丈二

署名議員 安里 琉翔